

## 『子どもを迎えて』

---

結婚して子宝に恵まれない私たち夫婦は、子どもとかかわる生き方をしたいと思い、里親になりました。そしてご縁を頂いた子どもは小学4年生だったので、それまで築いてきた本人のアイデンティティを否定せず尊重してあげたいと思いました。

我が家に来たとき、ご近所にいっしょにあいさつ周りをしたのですが、先に「名前はど  
する？」と聞くと、「今までずっと使ってきた名前です。」と言いました。子ども  
のそうした気持ちも大切にしたいので、「家族になりました〇〇〇〇です。」と私たちと名字  
が違うことも隠しませんでした。

その後も、できるだけオープンな子育てに心がけようと考えました。

ご近所にすぐに受け入れてもらい、ちょこっとした会合にもいっしょに行きました。お祭  
りが近づくやと青年団が毎晩のように獅子舞や鳴り物の練習をします。その集まりにもすんな  
り仲間入りして笛を担当しました。孫のようにかわいがってくれるご近所さんもいて、元々、  
どこかに行くことは嫌がらない子でしたが、地域に応援をしてくれる人がたくさんいること  
を感じていたと思います。いま振り返っても感謝です。

笛の練習には後日談があって、伝統的な曲調が気に入ればらくしてから民謡を習い始め  
ました。子どもの“やりたい(の気持ち)”は、実際の体験から生まれたようです。

夫婦で『こうしなさい』は言わないとルールを決めました。いつも「どうすれば良い？」  
と働きかけました。そして、子ども自身が答えを見つけるのを根気よく待ちました。高いハ  
ードルではなく、少し頑張れば達成できる目標を乗り越えるのを期待して、自己肯定感を育  
むようにしました。

ひとつ気になったのは、親としての私たちの年齢です。世間の親御さんより 10 歳は上回  
っています。どんな風に思っているのかなあ・・・と不安でした。いつまでも考えていても  
仕方がないと思い切って聞いてみました。すると「ぜんぜん大丈夫。なんとも思っていないよ」  
とサラッと返事が帰ってきました。言葉にしなないと、ほんとうのところはわからないもので  
す。

すんなりいかなかったことは、中2、高2の頃。子育てのセオリー通り思春期の時期です。  
女同士の私と娘は、衝突することばかり・・・。

見かねたお父さんとのある日の会話はこんな感じでした。

「お母さん、正論を言ってもダメだよ。今の時期は宇宙人と話をしていると思われ。お母  
さんは子どものとき、親の言うことを素直に聞いた？」

「聞いとらんかった。そのときはあたりまえやと思っとった。」  
「そうやる。子どもに完璧を求めるが？」言われて急に冷静に・・・。

この時期の子どもは、大人への曲がり角。ただでさえ体の変化、進学や友達との関係、自分でもよくわからないどうにも収集がつかないイライラで気持ちが揺れて、親にぶつけるしかなかったのでしょう。

「〇〇ちゃん、外でうまくやってるよ。外で暴れたらもっと大変よ。」同級生のお母さんにこんな風に言われ、気持ちが楽になったこともありました。

親目線で見ると、子の目線まで下がれなかったと反省するばかりです。思春期は子どもも親も乗り越える時期だと思います。

振り返ると私たちだから、安心してイライラをぶつけていたのかもしれませんが。つい、カーとなってしまい、たまにケンカもするのですが、必ず最後に伝える言葉があります。「あなたの家はここだよ。居場所はここ。」どんなときでも、これは欠かさないようにしてきました。

社会人になってから、この時のことを聞いたら、「なんでそんなことしたんだろう・・・？」とケロッと笑っていました。そんなものなのです。

娘は里親家庭で暮らすことを、自分にとってマイナス面とは受け取っていないようで、友だちが遊びにきた時も、とても自然に「里親さんなの・・・」と話していました。そんな感じなので、友だちもサラリと受入れてくれていたように思います。

実は、娘には長く付き合っている彼氏がいます。そばで見ていると、娘のありのままを受け入れてくれているのが伝わります。娘が努力して生きてきた分だけ、いい人と巡り会えたと本当にうれしく感じます。

「人生、楽しんだもの勝ち」が、娘にとっての格言だそうです。楽しみたいから、普段ががんばれるそうです。

家（うち）は子ども自身が答えを見つけるよう関わってきたので、そのかいがあってか、進路はいつも自分で決めてきました。二十歳を過ぎて里親委託が終了となっても親子であり続け、今年3月大学を卒業。就職のため上京する前に、3人で話し合い、養子縁組をして名実ともに親子となりました。

十数年前に、夫婦で一大決心をして里親になり、子どもとかかわる生き方ができたことは、本当によかったです。この里親制度のおかげで、血のつながらない私たちが、家族になれたことに感謝しています。最後になりましたが、私たちと同じ思いで、悩んでいる方がいらっしゃいましたら、思い切って、一歩前に踏み出して下さい。

現在、コロナ禍でお互いに行き来できない状況ですが、親バカになって、娘の好物をせつせつと送っています(笑)